慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	潮流を捉える
Sub Title	
Author	石上, 玄也(Ishigami, Gen'ya)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	
Jtitle	新版 窮理図解 No.30 (2019. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000030-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

潮流を捉える

石上 玄也

シェイクスピアの作品『ジュリアス・シーザー』の一節に、「人の世には潮があって、満潮に乗り出せば幸運をもたらし、無視すれば、その航海はすべて浅瀬に乗り上げ不幸になる」というものがあるそうです（「私の本棚」にて紹介した本より引用）。これは簡単に解釈すると、良きタイミングを見極めて物事を実行せよ、という意味になるかと思います。英語の「潮」にあたる単語「Tide」には、形勢や好機という意味もありますし（香りの強い洗濯洗剤も Tide ですね）、日本語でも好機のことを「潮時」というように、人生の然るべきタイミングやその流れを、古の人たちが潮の満ち引きに形容させたというのは、人類の生活と海には密接な関わりがあることを想起させます。

小学校で習うように、地球の潮の干満は月の天体運動によって引き起こされ、これが生命を育み、そして潮見表によって、漁猟に最適な時期を示してくれます。私にとっては、潮干狩りの恩恵に預かり、家族サービスをすることができます。一方、世の中の潮の満ち引きを見極めることは容易ではありません。シェイクスピアの時代よりも潮の干満が速い現代ではなおさらです。特に、ここ数年はかなり拡大解釈されてしまった AI・人工知能という圧倒的な潮流を見ない日はなく、またインターネットクラウドでは、多くのコンテンツが拡散・消費され、そして、モノの開発と淘汰は凄まじい速度で満ち引きを繰り返しています。これらの潮流がどこへ向かっているのか、今は上げ潮なのか引き潮なのか。複雑なうねりを生じているように思えます。

大学は、言わば、世の中の潮見を解析予測し、その流れに乗る舟を編み出すシップヤードであり、特に学生さんにとっては、学部から修士、博士、社会人という、いくつものダイナミックな潮目を経験するのではないでしょうか？　私は学生時代にスキューバダイビングをしており、潮の流れに乗って潜るドリフトダイビングというのを何度か経験しました。ほとんどは潮の流れに身を任せてダイビングを楽しむものなのですが、場合によっては流れに抗う必要があり、そのスキルも要求されます。

最近の私は、日々の事柄に流されがちだなぁと自省しています。世の潮に流されるままにならず、エネルギーに満ち溢れた先駆的な流れに乗り、時には流れに抗って新しい潮流を創出する、そのような気概でこれからの航海を進めていきたいと思っています。

理 工 学 Information

「矢上 AI・高度プログラミングルーム」を開設

慶應義塾大学理工学部は、矢上キャンパス 34 棟 407 号室に「矢上 AI・高度プログラミングルーム」を開設しました。ここには、最先端の AI 研究やプログラミング実装技術の活用を進めるため、AI や高度プログラミングへの取り組みを望む学生が最新の高度 AI マシンを共同で利用できる環境が整備されています。この環境の下で、AI・高度プログラミング関連の研究を行う学生同士が自由に交流や議論を行うことができ、大学や研究室という枠を超えた情報、アイデアの交換ができます。さらに、学部 3・4 年生向けの AI 入門コースも開講しました。ここには、AI・高度プログラミング相談員が常駐していますので、いつでも相談することができます。

また、2019 年 4 月 1 日より「AI・高度プログラミングコンソーシアム」を発足します。このコンソーシアムには企業も参加しますので、大学教職員・全学部の学生だけではなく、メンバー企業の社員も含めた交流ができるようになります。今後は、AI コンテストをはじめメンバー企業とともに多彩なイベントを企画したり、メンバー企業による講演会も開催する予定です。

「AI・高度プログラミングルーム」は、日吉キャンパス（藤山記念館 F11 号室）にも同時に開設していますが、それぞれのキャンパスの特徴に合わせた形で、信濃町、芝共立、湘南藤沢、三田キャンパスへと順次展開していきます。

編集後記

石上准教授が進めておられるロボット開発の話を伺うと、ロボットと人間の共存は映画の世界を飛び出して、あたたかみをもってとても身近に感じられました。柔らかな物腰のなかにも、人や社会に貢献するロボット開発への熱意と広範な知識・経験をあわせもつ先生ゆえに、尊敬と親しみを込めて学生さんから“石上さん”と慕われるのも納得です。

今年行われる電動車いすシリーズ日本大会への出場までのいきさつも、先生の研究者としての思いを知ると偶然というより運命のようなものを感じました。（福元麻美）

新版 窮理図解

No.30　2019　March

編集　新版窮理図解編集委員会
写真　邑口京一郎
デザイン　八十島博明、石川幸彦（GRID）
編集協力　サイテック・コミュニケーションズ
発行者　伊藤公平
発行　慶應義塾大学理工学部
〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先（新版窮理図解全般）
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先（産学連携）
kll-liaison@adst.keio.ac.jp
web 版
https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/
facebook
https://www.facebook.com/keiokyuri